

## 授 業 科 目 の 概 要

(保健医療学部 ヘルスプロモーション整備学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合的 教育 の 基 盤	生命のしくみ	生物は、動物と植物に大別されるが、その生命活動の仕組みの違いを知ることが生体機構を理解する基本となる。本科目では、まず生体の最小単位である細胞について学び、次いで組織、器官の構造とはたらきを解説する。医療人として、ヒトの身体の仕組みを知るための基礎について理解を深め、多様な生体現象を科学的に考察する能力を涵養することを目標とする。近年、遺伝子解析が急速に進み、生命の仕組みについては、かなり解き明かされてきたといっても過言ではない。教養課程で生命の仕組みを分子レベルで学ぶことにより、生体の仕組みを分子生物学及び生化学的な側面から理解を深める。併せて今日、話題となっている生命操作のもつ意義とそれから派生する生命倫理に関しても深く考察できる能力を涵養することを目標とする。	
	物質と自然のしくみ	人類は、古来より自然の現象に興味を持ち、探求することによって自然現象を支配していると考えられる原理を導いてきた。さらに、その原理から導かれるであろう現象を予想し、確かめることによって自然科学を育ててきた。そのなかでも物理学は最も基本となる分野であり、21世紀の今日広い範囲の物理的な現象に対して精度の高い予測が可能になった。現在、われわれの日常生活のあらゆる場面において利用する器具や機械には、物理学によって確立された原理を用いているものが数多く存在する。しかし、それらは少数の物理学の基本原則を応用したものであり、その概要を理解させる。	
	生命の化学	人間は、様々な化学物質の集合体であり、非常に巧妙な仕組みで生命維持活動を行っている。それら生体物質がどのような性質を持っているのかを勉強することは、医療を学ぶものにとって重要なことである。そこで、生命現象にかかわっている物質について原子レベルから分子レベルまで理解を深める必要がある。本科目では、どのような法則で生体が形作られ、生きていくためにはどのような化学変化が行われ、生体機能と関係しているのかを習得することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合 教育 科目	科学的思考の基盤	情報科学  現代の社会には、おびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し働くものとして、能率よく必要かつ有用な情報を入手し、それらを整理し、分析する能力を身につけることは大切なことである。また、仕事の上で文章やレポートを作成したり、提示しなければならない機会も増え、情報処理能力を養うことがますます重要になっている。今日、インターネットは、家庭にも広く普及しているが、本科目では、コンピュータの原理からはじめて、文章・画像情報処理、データベース、ネットワークの技術を身につけることを目指す。	
	人間と生活	心と身体の健康  「こころ」と「からだ」をつなぐキーコンセプトを精神医学的観点から解き明かし、一般臨床場面で出会うことの多いケースを中心に、精神・身体疾患の患者が呈する精神症状や心の問題への対処法などを、実際例をあげて解説する。基本的には、コンサルテーション・リエゾン精神医学の歴史と概念や科学的基盤としての精神免疫学的アプローチ（精神・免疫・内分泌相関）について学び、こころと体の関係の仕組みを理解し、患者の治療、さらには健康増進や病気の予防への応用を考える。	
	生活	法の基礎知識  法律学の基礎的知識について解説することが、本科目の主たる目的である。我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係が存在しているかということを、伝統的な法学の体系に即した講義を行いながら、理解してもらうよう努める。オリエンテーションとして、六法の使い方を解説した上で、法とは何かという総論的な問題から、裁判制度や民法等の基礎的な法の仕組みまでを解説する。医事的、時事的問題もとりあげて、現実の生活を法的に説明できる素養を培う一助としたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合人間教育と育生科目	社会文化人類学	<p>(大野)</p> <p>制度や集団の中で生きていく人間の諸問題を、社会現象の観点から解き明かそうとする社会学の対象領域において、現代の日本がとくに深刻に考えなければならないのが、家族に関する問題である。そこで、戦後の社会変動の中で日本の家族の機能がどのように変化してきたかを詳しく講義する。高度成長期の産業化・都市化に伴って、「サラリーマンの父と専業主婦の母」を中心とする核家族が誕生したが、介護問題、ひきこもり、児童虐待、パラサイトシングル、ドメスティック・バイオレンスなど、現在の家族問題の多くが、この核家族の成立と崩壊の過程に関係している。このような現代の家族やジェンダー（性別役割分業）についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>(斎藤)</p> <p>健康と病気の発生に影響を与える生物生態学のおよび社会文化的要因について、比較文化的に探求する。本科目では、異なった健康・病気観、治療方法をもつ複数の医療が並存する「医療的多元性」に着目し、伝統医療あるいは民族医療の今日的な位置づけを試みる。具体的には、主として日本もしくは台湾の事例を取り上げ、医療における病者 - 治療者関係、病気体験と病気行動の文化的構成に関して考察することにより、現代医療の体系も文化的・社会的背景と関連性を有することを理解させる。</p>	
	スポーツと健康	<p>現代社会の発達には、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こし、生活習慣病の誘因となる。スポーツと健康では、初めにこれらの成り立ちを学ぶ。次に、臨床で関わりの深い、腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちとスポーツとの関わりについての知識を身につける。最後にスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響をおよぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、さらに基礎的な応急処置の理論を習得する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育と生活科目	生涯スポーツ	<p>慢性的な運動不足は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツでは特に肩こり、腰痛、肥満、高血圧、生活習慣病などの予防・改善に有効なスポーツ・運動であるストレッチング、腰痛体操、ジョギング、ウォーキング、太極拳などを実践する。また、患者や高齢者を含めた地域の人々とのコミュニケーションをとる手段の一つともなるニュースポーツ(たとえばゲートボール、グラウンドゴルフ、ペタンク)の指導法を含めた知識と技能を学ぶ。</p>	
	生涯スポーツ	<p>健康や体力の維持増進は、人生をより良く過ごす上で重要な問題である。しかし、今日の日常生活では、身体活動の機会は減少し、体力の低下を招いている。生涯スポーツでは、日常において手軽にでき、生涯を通じて行えるスポーツ(ゴルフ、テニス、水泳、スキー)や太極拳などの実践を通して、良好なコンディショニングを維持する知識と技能を学ぶとともにスポーツの楽しみ方を身につける。</p>	
	アスレティックトレーナー概論	<p>本講義ではアスレティックトレーナーとして必要となる医学的知識を主として学ぶ。具体的には、救急処置やアスリートの健康管理、内科的障害と対策、外傷・傷害と対策、リハビリテーション・トレーニングのプログラム、コンディショニング、特殊環境下での対応、アンチドーピングなどを学ぶと共に、コメディカル職としてこれらの知識をどのように応用することができるか考えさせる。また、次年度以降更に細分化し専門的に学習することになるため、基礎的な考え方を身につけさせることを目標とする。</p>	
	アスレティックトレーナー概論	<p>本講義では、スポーツ現場における心理学や指導者が背負う社会的・法的責任を主として学ぶ。本講義はスポーツと心理、動機づけ、コーチングの心理、メンタルマネジメント、指導者のメンタルマネジメント、スポーツ事故による指導者の法的責任、スポーツと人権などを講義すると共に、コメディカル職としてこれらの知識をどのように応用することができるか考えさせる。また、次年度以降更に細分化し専門的に学習することになるため、基礎的な考え方を身につけさせることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総 人 合 間 教 と 育 生 科 活 目	スポーツトレーニング論	<p>             スポーツトレーニングと一口にいても、体力・技術・心理・戦術・戦略など様々な要素が含まれる。本講義は、運動体としての身体を理解し、目的に合ったトレーニングをより効果的に指導できるようになるための基礎を学習してもらう。本講義に含まれているトレーニング論、指導計画と安全管理、発育発達期～中高年・女性・障害者のスポーツ指導、バイオメカニクスの基礎などを学ぶことで、トレーニングに対する柔軟な考え方を身につけ選手のスポーツ能力開発育成を目指す。           </p>	
	スポーツコーチング論	<p>             プレーヤーの競技力を向上させるためにはスポーツ科学に基づいたトレーニング理論やプログラミング・コーチングが必要である。本講義では特にコーチング論に焦点を当て、指導者の役割、指導者の心構えや視点、競技者育成プログラムの理念や指導計画、選手との望ましい関係、ミーティング方法論、ITの活用、チームマネジメントなどについて学習する。アスレティックトレーナーも例外なく指導者であり、本講義を受講することで指導者の理念や計画性を理解し、理論的な思考を構築できるようになることを目標とする。           </p>	
	スポーツ社会学	<p>             スポーツは文化活動の一端であるにも関わらず、各種国内・国際大会ではその枠組みを超えたような取り組みが成されていることもある。本講義は、スポーツの起源やそれを取り巻く文化、行政政策上のスポーツ振興や地域スポーツの取り組み、国家事業としてのスポーツ、更にはスポーツ組織の運営やスポーツ事業の計画・評価などのスポーツを取り巻く社会や文化について学習するものである。これらを学習することで、各国のスポーツ文化とそれらを取り巻く職業としてのアスレティックトレーナー像を相対的に捉えられるようになることを目標とする。           </p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目	英語表現法	<p>今日、国際化が進む中、「英語を話す能力」を獲得する必要性は、高まる一方である。しかし、英語を話すことは、伝えたい内容をまず日本語で考え、それを対応する英語に置き換えることではない。日本語的発想ではなく、英語的な発想によって表現しなくては、相手に英語で正確に気持ちを伝えることはできない。</p> <p>そこで、本科目においては、英語に対する感覚を磨き、英語らしい英語を話す能力を高めていくことを目的とする。</p> <p>まず各種の視聴覚教材を活用して、自然な英語表現の耳からのインプットを図り、英語的な発想による様々な表現方法を学ぶ。</p>	
	英語表現法	<p>アメリカ、イギリスを初め、世界各国から英語によって発信される情報に触れる機会が格段に増えた今日、英語の情報をキャッチし理解する能力は不可欠のものとなった。その情報には、目と耳から入ってくる情報と、活字やインターネットなど、文字を通して入ってくる情報の二種類があるが、その両方を把握する能力が必要なことは言うまでもない。</p> <p>本科目では、そのうちの文字による情報を、できる限り速く、的確に理解する能力を養うことを目的とする。</p>	
	英語表現法	<p>英語を学ぶものにとっての最終目標は、英語で意見交換ができるようになることではないだろうか。おぼえた表現を使って相手に応答するのではなく、相手の意見に対し、賛成、反対を明確に示して自分の意見を英語で自由に述べられてこそ、真の“the international communicator”と言えよう。本科目では、その目標に向かって、「英語で自分の意見を言う」ための種々な訓練を行う。</p>	
	国語表現法	<p>日本で生活するかぎり、伝達の大半は、日本語を使用することによって成立する。従って、生活のあらゆる場面で日本語の的確な表現力と文章力を身につけていることが要求される。本科目では、よりよい言語表現を実現するため、その表現媒体である日本語についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目的としている。普段なにげなく使っている日本語について意識的に考えさせることは、学生の表現能力や文章能力の向上につながっていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	中国語	<p>日中交流の歴史は古いので、中国語の習得は、中国を理解する上で役立つばかりでなく、日本の文化や言語についての認識を深めるためにも有効である。そのために、まず四声(イントネーション)や拼音(ピンイン)といった発音や表記法の初歩を習得した後、日常会話や簡単な作文ができるよう、併せて医学用語も理解できるように、中国語の基礎を指導する。</p>	
専門科目	人体の構造	<p>本科目では、人体の構造を形態学的に学習し、それら構造と機能の関連を取り扱い、生命の本質を理解させる。将来、臨床医学や整復技術に関連する教科を学ぶ上での基礎知識をこの科目を通して身につけさせ、生命の尊厳を考える一つの土台を提供することを重視している。そのため、系統解剖学の他に体表解剖学、局所解剖学についても講義する。</p>	
	人体の構造	<p>人体の構造と機能を形態学的に理解するには、肉眼的、顕微鏡学的、分子生物学的知識を総合的に学習することが重要である。そのため、人体模型、骨模型などを用い、人体の構造で学習した人体各部の構造を三次元的に理解し、人体を構成する各臓器・細胞成分について顕微鏡標本による観察実習を行い、人体の生理機能との関連など総合的に学習することを目標とする。</p> <p>実物骨標本や臓器標本による学習を通して、実際の人体における立体構造や個体差などを観察し、将来、臨床に役立つ知識の習得に努める。</p>	
	人体の構造実習	<p>人体の構造を機能形態学的に理解するには、肉眼的、顕微鏡学的、分子生物学的知識を総合的に学習することが重要である。本科目では人体模型、骨模型などを用いた実習作業から人体の構造・で学習した人体各部の肉眼的構造の三次元的理解を深め、また、人体を構成する各臓器および細胞、組織について顕微鏡標本による観察実習を行い、人体の生理機能との関連などを総合的にとらえる力を涵養する。さらに、実物骨標本における立体構造や個体差などの観察を通して、実際の臨床へ発展させる知識の習得に努める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	人体の機能	人体の機能 では、人体生理学を講義する。生体の機能は、自然科学的に解説する基礎医学のなかでも、特に重要な科目の一つである。そこで、臨床医学への橋渡しとして、基本的な生理学概念のうち動物性機能について、神経一般 伝道と伝達 自律神経と末梢神経 中枢神経 筋肉と運動 感覚と知覚に大きく分けて講義をすすめる。	
	人体の機能	人体の機能 では、人体生理学を講義する。生体の機能は、自然科学的に解説する基礎医学のなかでも、特に重要な科目の一つである。そこで、臨床医学への橋渡しとして、基本的な生理学概念のうち植物性機能について、細胞、組織、生体の反応 血液、体液、循環 呼吸 排泄 消化と吸収 栄養と代謝 体温 内分泌 生殖に分けて講義を進める。	
	人体の機能実習	基礎的な生理機能に関する項目について実習することにより、人体の機能 ・ で学習した人体の機能と調節機構についての理解をさらに深めることを目標とするため、いくつかの項目について生理学の実習を行う。この実習では学生を小グループに分け、可能な限り実践的な実習になるように企画している。学生には、自主性をもって実習に参加するように指導し、各項目ごとにレポートの提出を義務づける。	
	運動生理学	運動生理学は応用生理学の一分野で、運動を行っているときに体内で行われている生理機能の変動、その機能の向上、さらにはその効用と危険性、運動療法による機能の回復などの科学的な追及をする学問である。実際には 血液と運動 呼吸循環と運動 神経と運動 筋と運動 内分泌と運動 体温調節と運動 運動と疲労 について授業を行うとともに、運動が健康に及ぼす影響に関する知識についても教授する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	人体の構造 基礎運動学	「人体の構造」「人体の機能」の知識を基礎として、上肢、頸部、体幹の各関節運動における筋・神経機能を理解する。まず筋収縮によって起こる関節運動のメカニズムについて学び、さらに骨の形状や靭帯の走行など各関節の機能的な特徴を把握しながら正常な関節ではそれぞれどの方向への運動が可能なのかを理解して行く。さらにそれぞれの関節運動が、人体に多数存在する筋のうちどの筋の働きによって出現するのか、またその筋がどの神経の支配をうけているのか等についても十分な知識、深い理解を得られるように進めて行く。	
	機能 基礎運動学	「人体の構造」「人体の機能」の知識を基礎として、下肢の各関節運動における筋・神経機能を理解する。また、実際の臨床においては、動作観察能力と動作分析能力が必要であることから、日常生活動作における「正常動作」の理解に視点を置いた講義を展開する。特に立ち上がり動作、歩行動作などの基本動作に着目し、それぞれ正常動作に必要な関節運動と筋・神経機能との関わりについて講義する。	
科目	疾病 病因・病態学	生体において、疾病がどのような原因により発生し、また、どのように病的変化が形成されていくかということを知ることが、その疾病の本質を理解する上できわめて重要なことである。本科目では、病因、発生機序、経過・予後など、疾病に関する基本的理解をはかることを目的として、疾病病変に共通する代謝異常、退行性病変、進行性病変、循環障害などを取り上げていく。	
	傷害 病因・病態学	生体において、疾病がどのような原因により発生し、また、どのように病的変化が形成されていくかということを知ることが、その疾病の本質を理解する上できわめて重要なことである。病因・病態学では、病因・病態学にひきつづき、腫瘍、アレルギー、免疫異常、遺伝性疾患、先天異常などを中心に取り上げていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	内科診断学	内科診断学では、医療面接技術 代表的な症候や症状 病態を把握するために必要な基本的身体診察手技 補助検査について講義する。そうした知識を身につけることにより症候や症状から診断に至る過程について理解し、患者の病態の全体像を把握する能力を養うことを目標とする。補助検査については、血液検査 組織学的検査 心電図、筋電図、呼吸機能検査などの生理学的検査 心エコー、腹部エコー、CT、MRI などの画像検査 内視鏡検査などについて解説を行う。	
	内科各論	分子生物学や検査法の進歩により内科疾患の各分野においても病因・病態の解明が急速に進んでいる。そのため、個々の疾患における病因・病態の理解は、患者の全体像を把握するためにも重要である。本科目においては、内科診断学で学習した知識を基に、内科系各分野（内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、感染症、膠原病・アレルギー疾患、消化器疾患、腎尿路疾患）における病因・病態・診断法・治療法について最新の知識を習得することを目的とする。	
	外科各論	本科目では、手術治療の基本となる術前管理、麻酔、手術手技、術後管理、外科的な輸液、栄養法などについての知識を習得した上で、外科的治療法が必要とされる脳神経、循環器、消化器、運動器、泌尿器領域の主要な疾患の診断、検査、手術療法についての講義を行う。また、各科の代表的な疾患について実際どのような手術が行われているか、手術の適応と禁忌はどのように決定されるか、などについての理解を深めるとともに、最近普及してきている内視鏡手術、腹腔鏡下手術、血管内手術などの新しい手術療法についても解説を加える。	
	整形外科学	柔道整復の適応となることの多い運動器の傷害・疾病は、整形外科の領域と重なる場合が多い。 本講義では、各種整形外科疾患について、病理解剖学や病態生理学に始まり診断学（補助診断法を含む）、治療学などを解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門と教養科目	疾	<p>【総論】</p> <p>(1) 概説、(2) 診断学、(3) 治療学、 (4) 外傷一般、(5) 腫瘍一般</p> <p>【各論】</p> <p>(1) 肩関節・上腕、(2) 肘関節・前腕、 (3) 手関節・手、(4) 骨盤・大腿、 (5) 膝関節、(6) 足関節・足、(7) 頸椎、 (8) 胸腰椎、(9) その他</p>		
	病	リハビリテーション総論	<p>リハビリテーションは「人間らしく生きるための権利の復活」と定義されている。本講義を通して、「人間らしく生きるための権利の復活」を援助する具体的な方法を理解させることを目標とする。講義では、リハビリテーションの意義・評価・基礎技術に関する講義および実技をおこない、柔道整復師に必要なリハビリテーションの基礎の習得を目指す。柔道整復師にとって重要である関節可動域検査、徒手筋力検査については特に重点をおく。また、整復臨床に併用できる基礎技術についても講義・実技をおこなう。</p>	
	傷	リハビリテーション各論	<p>本科目では、リハビリテーション総論の内容をもとに、外科系・内科系のリハビリテーションについて講義をする。すなわち、外科系では、脊髄損傷、切断、運動器疾患、筋・末梢神経障害のリハビリテーションについて講義をする。内科系では、脳血管障害片麻痺、脳性麻痺、呼吸器疾患、循環器疾患のリハビリテーションについて講義をする。特に、柔道整復師が臨床でよく経験する運動器疾患および脳血管障害片麻痺については、病態生理、リハビリテーション評価、治療について講義し、実技も積極的に取り入れる。本科目を通して、整復臨床に必要な各疾患でのリハビリテーション技術について具体的な方法も含めて習得させることを目的とする。</p>	
	害	保健医療福祉と柔道整復の理念	<p>保健医療福祉概論</p> <p>本科を卒業後の進路としては独立開業だけではなく、介護老人保健施設・特別養護老人ホームなどの福祉施設など幅広い分野が想定される。本科目では、医療・福祉・保健の各制度の歴史的背景やその具体的な内容を講義する。医療・福祉・保健の各領域における関連性を理解することで、柔道整復師が患者へ適切なサービスが提供できることを視野に入れて出来るだけ具体的に解説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教養科目	保健医療福祉と柔道整復の理念	医療制度の中で、柔道整復師がどのような位置づけにあり、又法律上どのように担保されているのかを学び、今後、柔道整復師を業として行う際に社会に貢献するためには、法律上何が必要であるのかを考える力を養い、又、医療行政や制度がどのように整備充実され、医療の担い手がどのように分担しているのかを理解できるよう、法の沿革及び法体系 柔道整復師法 医療法 その他の医事法規(医師法, 診療放射線技師法等) 薬事法規 保健衛生法規, 予防衛生法規等について講義を進行する。	
	衛生・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学は、健康の科学である。日本の社会は、今や経済成長率の鈍化、産業構造の高度化、人口の老齡化、社会の複雑化などに伴い、病気や死因の構造も変化し、人々が保健医療に期待することがらも変わってきている。人々の健康増進にかかわる柔道整復師、健康運動実践指導者は、健康づくりやプライマリーケア等、保健医療の資源と人々とを結びつける仕組みを理解する必要がある。そこで医療に携わる者の常識として知っておくべき項目、衛生学・公衆衛生学の意義 健康の概要 健康管理と衛生行政 老人対策 医療行政と医療保障 環境衛生(自然と人工環境)について講義する。	
	衛生・公衆衛生学	衛生学は、個人を対象とし、公衆衛生学は、社会を対象とした、人々の健康保持、増進のための実際的な活動を考える学問である。今日、多様化、複雑化する日本社会の変化と地球規模での環境変化が様々な要因として、人々の健康を脅かすようになってきた。医療人として、これら現状を理解し、人々の健康増進に如何に寄与できるかを考えさせる。本科目では、予防に重点を置いて、予防衛生統計 環境の衛生 食品の衛生 産業保健 母子衛生 精神衛生 感染症の予防と治療 消毒方法の種類と応用 生活習慣病等を『国民衛生の動向』を参考に講義を進める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	保健医療福祉と柔道整復の理念 柔道実技	柔道は、日本古来の柔術を起源とする武術であり、嘉納治五郎先生が、柔道へと発展させ、現在では、世界各国でも行われている日本が起源の武道である。また柔道といえば、礼に始まり礼に終わるといわれる程であり、これをマスターすることにより、人間関係の構築、礼法を通じての相手への敬意の表現ができるよう指導を行う。本学科では、柔道整復師の資格を目指すということで、柔道由来の活法を理解させることにより、これを施術の際に行かせるように指導を行う。	
	基礎 整復学総論	柔道整復施術に必要な柔道整復理論の知識を得る。柔道整復術は骨折・脱臼・打撲・捻挫・軟部組織損傷に対しての施術を行うものであるため、これらについて総合的知識と理解をもたせ、実際の臨床現場での施術にあたるための基礎知識が得られることを目標とする。柔道整復の理論を初めて学ぶ者の為に、柔道整復学以外にも、基礎的な解剖学や、標準的な整形外科学の知識及び臨床に役立つ内容を取り混ぜながら講義を進める。	
	臨床 ・ 整復学各論	顎関節、鎖骨、肩関節は臨床上損傷を受けることが多く、日常の作業やスポーツ時の損傷としては頻度が高く、重要な部位である。本科目では、これらの部位の整復術や固定術の理論を修得できるように講義を進める。また、神経や血管の損傷を伴うことも考慮し、機能的解剖学を十分理解させながら整復法や必要な知識技術について授業を進める。	
	復学 整復学各論	本講義では、脊椎周囲、上腕骨と肘関節の周囲の整復施術に関する理論と知識を教授する。脊椎骨はその中に脊髄という中枢神経を保護している骨であり、この部位の施術時の取り扱いには、大変慎重を要する。脊椎の周りに関する損傷には、寝違えといった軽微なものから脊髄損傷を含む重大な損傷まで様々である。上腕骨周囲についても、脊髄を起点として様々な神経や血管の走行がある。そこで脊椎周囲、上腕骨と肘関節の周囲神経学的検査などを含めながら、柔道整復の適応かどうかの見極めが出来、その上で整復施術が行えるよう講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 教 育 科 目	基 礎 ・ 臨 床	整復学各論	前腕骨、手、指の骨折・脱臼・軟部組織損傷についてテキスト「柔道整復理論」(社団法人柔道整復学校協会編集)を基本として授業を行い、各疾患ごとの発生機序、分類、症状、整復法、固定法、後療法、後遺症(合併症)を説明し、より理解を深める為に臨床例を含めて解説を加えて行きます。手指は、前腕より指へと続く様々な筋、腱、神経、骨が複雑微細な運動を可能にしている。このつながりに関する機能・解剖を良く理解させ、施術に生かせるよう下記の部位の症状について指導を行う。	
	整 復 学	整復学各論	骨盤骨折を含め骨盤や大腿部の損傷は、柔道整復不応または適応が難しいものが多々あり、鑑別診断及び各損傷そのものと、その損傷に付随する損傷や合併症についての知識を学習することを一つの目標とする。 さらに、骨盤・大腿部からは膝へ骨、筋、軟部組織が連なっており結びつきがあるので、膝部付近の骨折、脱臼、及び大腿から膝部の軟部組織損傷についてもあわせて学習する。特に膝部の軟部組織損傷はスポーツ損傷としてよく遭遇する損傷であり、その診断のための検査法やスポーツの中止、継続、復帰のための訓練を含めその判断等についても講義を行う。	
	学	整復学各論	下肢の膝関節より遠位部における、骨折、脱臼、打撲、捻挫、挫傷についての柔道整復理論を教授する。上記について、解剖学的な構造と機能を確認し、発生機序、症状、整復法、固定法、後療法、後遺症などについて指導する。また、各々の部位で起こる損傷に対する特徴的な徴候や、鑑別診断の知識が必要となる疾患、臨床的な参考事項などにも知識を深めていきたい。	
	学	画像診断学	骨折、脱臼、捻挫等の運動器の急性病的状態に施術を行う場合には解剖学的知識が非常に重要であることは当然であるが、「補助診断法」としての各種画像診断は近年特に進歩が著しい分野である。本講義では単純X線写真、CT、MRIなどの見方や人体における様々な部位での正常像、異常所見を解説していく。但し、あくまでも「補助」診断法であることに留意し、症例の症状や理学的所見との対比に十分注意し実際の治療や生活・運動指導に生かせる形で講義を進める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	臨床整復学	<p>临床上様々な症例について様々な論理、診断、鑑別があり、当然その施術方法も様々で異なる。その中で日常の臨床で遭遇する症例を中心に学生と検討し、講義する。特に、理論と実践の一致を基本的なコンセプトとして講義を行う。临床上は理論にそぐわない部分もあるが、そういった部分については、临床上の経験から得たものを固定法を中心として講義を進行する。</p>	
	整復総合演習	<p>この科目では、整復臨床実習などの実学と平行した位置づけで、西洋医学的な側面を含めて基本から応用にかけて柔道整復を実践できる為の知識を横断的に講義する。具体的には、総合的な臨床医学、一般臨床医学、リハビリテーション学、運動学、外科・整形外科などを柔道整復に生かせるよう総括的に講義する。</p>	
	整復総合演習	<p>本科目は、整復総合演習と同様に整復臨床実習などの実学と平行した位置づけで、基礎医学的な側面を含め基本から応用にかけて柔道整復を実践できる為の知識を横断的に講義する。具体的には、人体のしくみと機能論（生理学・解剖学）、病理学概論を柔道整復実践時の様々な判断材料に生かせるよう、総括的に指導を行う。</p>	
	整復総合演習	<p>この科目では、整復学各論 から と整復学実技 から の内容に実際の柔道整復施術を行う際に注意すべき法律である柔道整復関係法規と、患者と施術者自身の衛生を加味するため衛生・公衆衛生学を加え、整復臨床実習など実学に生かせるよう横断的に学修する。</p>	
	包帯学	<p>骨折、脱臼、捻挫、打撲等を取り扱う柔道整復師にとって包帯は欠かせない技術の一つである。本講義では、包帯の巻き方の基本形及び、各部位の纏絡法を応用して、種々の部位に対し、临床上の目的に合った包帯を施すための基礎を身につけさせ、柔道整復施術時に臨床応用可能な包帯術を修学することを目的とし講義を進行する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	整復学実技	<p>本講義科目は、整復学各論 での下記の内容の理論を発展させ、整復法、固定法や後療法についての実技実習を行う。ただ単に整復の手法の順を機械的に覚えるのではなく、各々の施術や手技を行う際の目的を、機能解剖等を含めて把握・理解した上でできる様に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折 1.鎖骨骨折(定型) 2.肋骨骨折</li> <li>・脱臼 1.顎関節脱臼(前方脱臼) 2.肩鎖関節脱臼 3.肩関節脱臼(前方脱臼)</li> <li>・部組織損傷 1.肩腱板損傷(検査) 2.上腕二頭筋腱損傷(検査)</li> </ul> <p>などの内容について実習指導を行う。</p>	
	整復学実技	<p>本講義は、整復学各論 で習った、上腕骨及び肘関節部の損傷についての固定法、整復法、後療法を含め、整復術全般に渡り実技実習を行う。また、整復にあたっては、単に整復操作を覚えるだけでなく、骨・関節の動きをイメージして操作できるよう指導を行う。したがって、全ての操作の意味はもちろん、筋肉・靭帯を含む機能・形態面の全てを理解させ、整復学各論 で学習した各々の部位の損傷について実習講義を進める。</p>	
	整復学実技	<p>本講義は、整復学各論 において理論を習得した後、前腕・手・指の骨折、脱臼の代表的疾患・外傷についての整復・固定などの実技実習を各論 で学んだ範囲の骨折・脱臼・打撲・捻挫などについて行う。骨折、脱臼については、レントゲン写真など参考資料にし、理解が深まるよう指導する。特に、固定法の実技については、種々の固定材料を紹介しながら、基本を理解したうえで臨床に応用のできる技術の習得を目標におく。このように、整復・固定の基本を理解したうえで、臨床に即する実践的な講義を進める。</p>	
	整復学実技	<p>本講義では整復学各論 で学んだ理論をもとに、股関節部と大腿部からつながり臨床上遭遇する機会が多い膝関節周囲の損傷までについて、臨床的発生機転を踏まえた上で実技講義を行う。各論で学習した知識、実技、検査を実践的に行うにあたっての整復技術、固定材料の作成、及び固定技術等のテクニックについて整復学各論 で学習した部位の損傷に対し実技能力が得られるよう指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	整復学実技	本講義は整復学各論 とリンクした科目である。下腿部、足部、足指部の骨折と脱臼の整復法と固定法、また軟部組織の損傷に対しての徒手による検査法と整復処置などを整復学各論 で修学したことを基に下記の部位の各傷害について臨床応用できる能力を習得することを目標とする。	
	整復臨床実習	専門教育科目全般で、修得してきた理論、知識や技術を実際の臨床の場（大学附属臨床施設：整骨院）において実践することを目標とする。施術については、問診の補助 各種検査法の実践評価補助 整復や後療法補助や包帯・固定などの補助を行わせる。また、施術に必要な機器について準備セッティングの仕方と取り扱い方法について理解し、実際に使用できるよう指導を行う。さらに、実際の患者への接し方、会話の方法とスタッフ間とのコミュニケーションがうまく取れるよう自覚を促していく。	
	整復治療学（実技）	組織損傷を回復させる為の治療法である後療法には、手技療法、運動療法、物理療法がある。後療法の対象となる拘縮や筋萎縮は、骨折、脱臼や捻挫の固定時より発生する。これらを防ぐため、軽擦・揉捏・叩打・圧迫・振戦・伸張法などの手技を修得し、それらを局所もしくは遠隔部に施し循環を改善させ損傷の治癒過程を促進させることができることを目標とする。また、健康運動指導時やスポーツ時にスポーツ障害を未然に防ぐ為の柔整の手技療法も併せて指導を行う。	
	整復治療学（実技）	柔道整復師の治療対象となる傷害は、骨折・脱臼・打撲・捻挫・軟部組織損傷などであるが、これら傷害に対し施術治療を行う際には、皮膚、結合組織、筋、関節、神経などの解剖学的、生理学的特徴とその知識に基づく臨床応用ができる能力が必要不可欠である。上記のごとく解剖・生理学的に柔道整復師が対象とする各々の傷害に対する施術治療の知識と技術を臨床応用できるように実技指導を行い、医療や介護などの様々な領域に対応できる柔道整復師となれる様指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	整復実技	<p>本講義では、テーピングの歴史的背景、使用目的と使用材料やテーピングの効果について理解させる。その上で、傷害予防および再発予防や軟部組織損傷時の固定を含めてテーピング手技を実際の臨床現場やスポーツ現場での応急処置に的確に活用できるよう指導を行う。テーピング時のテープの1本1本の意味を理解させるため、筋や腱の走行や損傷を生ずる物理的な力学面などを考慮した機能解剖学的な点においても同時に実習し理解させる。</p>	
	生命倫理	<p>医の東西を問わず、古くから倫理的問題に関心が寄せられ、ヒポクラテスの誓文や中国古典の『傷寒論』などに厳しく取り上げられている。しかし、医学の技術と知識が進歩するにつれて、医療倫理に次々と新しい問題が提起され、医療の問題は解決されても、人間的・社会的価値を基準に倫理的判断と両立しないことが多い。</p> <p>科学技術の発達によりもたらされた成果は、直接人間の幸福につながるものではなく、厳しい選別が必要である。それだけに、医療倫理は、医療従事者だけではなく、患者家族を含めて広く一般の人々にも理解されなければならない。本科目では、医療倫理の考え方と、具体的な医療問題をとりあげる。</p>	
	健康管理学	<p>健康管理学は人間の健康の維持・増進に関する学問である。本講座では、健康は、運動、栄養、休養の調和のとれた生活を送ることが重要であるとの考えから、運動、栄養、休養と健康に関する知識を習得する。また、健康に影響を及ぼす様々な生活習慣や環境要因、健康を脅かす病気の実態についても予防医学としての視点から述べるとともに、不健康な生活は「介護予防」を早めることを理解させ、個人の健康管理が個人だけの問題ではなく社会全体に対する問題であることも認識させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 複 合 目	感染管理学	<p>病院や介護老人保健施設における感染防止技術や感染管理方法についての基礎知識を修得することを目的に、以下の事項について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 院内における病原微生物の感染様式</li> <li>(2) 細菌検査（手指、治療室、治療器具）</li> <li>(3) 院内器具・機器の洗浄と消毒・滅菌</li> <li>(4) 院内の清掃と廃棄物の処理</li> <li>(5) 感染防止</li> <li>(6) 賠償責任など</li> </ol>	
	安全管理学	<p>医療事故の発生は後をたたない。その社会的背景と医療現場の現状を確認した上で、医療事故（アクシデント）や医療事故に結びつく可能性のある事象（インシデント）が、なぜ起こるのかを、具体的な事例の分析と評価を通じて考察する。また、医療事故防止の取り組みの実際や、発生した場合の対応、医療従事者間の連携等について理解し、組織的に事故を抑止するための安全管理のあり方を学ぶ。</p>	
	加齢医学	<p>現在、日本人の平均寿命は、約 80 歳で世界の最高水準に達している。その結果、我が国における高齢者人口は増加し、それに伴い老人性痴呆症（認知症）骨粗鬆症などの高齢者に多くみられる疾患と高血圧症や糖尿病などの生活習慣病の増加がみられる。また、高齢者では、若年者と異なり加齢に伴う特殊な病態がみられるため、その理解が重要である。そこで本科目は、加齢に伴う肉体的、精神的变化ならびに高齢者特有の病態や疾患を理解し、高齢の患者に対して日常生活における活動性の改善などについて適切な指導、助言が行えることを目的とする。</p>	
	薬学概論	<p>医学の領域の中における治療学において、薬物療法は、最も重要なウェイトを占めている。薬と病気の関係について解明し、より効果的な薬物療法の発展を試みるのが薬理学の目的といえる。現在、医療現場では、様々な薬が用いられている。現在の医療現場でどのような薬物がどのような目的で投与され、どのように生体に作用するのかを理解することは、臨床家にとっても重要といえる。当科目では、その基礎を学ぶことを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育複合科目		<p>生薬、特に植物性生薬は、大地からの贈り物である。生薬を学ぶことは、人間の健康保持に必要な自然の恵みと生活文化の関わり合いを知るためには必要である。健康意識の高まりと共に「自然」なもの（生薬）による健康法が注目されてきている。そこで、生活の知恵として使われてきた民間薬、伝承薬も含め、よく知られている生薬について正しい知識（有効成分、有効部位）と、その知識に基づいた利用法を紹介する。また、身近（家庭）にある生薬の意外な利用法についても概説する。</p>		
	医療	統合医療（代替医療）	<p>統合医療とは、現代西洋医学的手法では十分に効果は立証されていないものの、伝統医学や民間医療などのように、経験的に有効であると考えられる医療あるいは治療技術を総称したものである。補完代替医療とも称される。具体的には、中国医学（中薬、鍼灸、推拿）、日本漢方、日本鍼灸などの伝統医学から健康食品、ハーブ、アロマセラピー、温泉療法に至るまで多種多様な治療法が含まれる。本講義では、こうした代替医療の基本的な考え方、知識を教授する。</p>	
	複合	統合医療（代替医療）	<p>本講義では、統合医療の内容を踏まえたうえで、その中の具体的ないくつかの医療、治療で、特にヘルスプロモーションに応用することのできるものについて、それらの背景を理解したうえで実践するための知識・技術を修学する。</p>	
		応急処置実習	<p>ヘルスプロモーション、柔道整復の実践において、救急を要する患者が出た場合に、一次救急を的確に行い救命するための、基本的知識、技術を教授する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 複 合 目	医学推計学	<p>医学推計学を学ぶ上で大切なことは、医学の分野における現象を科学的に把握する方法を身に付けることである。そのため、疾病の分布、発生原因を研究する疫学的アプローチに習熟し、基礎的な知識と技術について、特に率の計算、比較、統計処理などについて理解を深める。多様な研究デザインの利点と欠点を理解し、実験計画をたてることや医学的論文を批判的に読むことを練習する。また、疫学研究で避けられない「偏り(バイアス)の扱い」「疫学手法の臨床への応用」「サーベイランス」など今日的な課題を理解できるようにする。</p>	
	臨床疫学	<p>EBM (Evidence Based Medicine、根拠に基づく医療) の理解は今や臨床に携わるものには不可欠である。今後、ヘルスプロモーションや柔道整復の分野においても、EBM を推進することにより、指導や治療内容の充実と標準化をはかることができると考えられる。また、患者に対して、その根拠を示すことにより信頼関係を深めることができる。EBM は「診ている患者の臨床上の疑問に関して、医師が関連文献等を検索し、それらを批判的に吟味した上で患者への適用の妥当性を評価し、さらに患者の価値観や意向を考慮した上で臨床判断を下し、専門技能を活用して医療を行うこと」とされている(厚生労働省「医療技術評価推進検討会報告書」)。本講義では、そうした EBM に関する基礎的な知識並びに将来 EBM に沿った治療を応用するための知識を教授する。</p>	
	神経科学	<p>神経科学は、基礎生物学から神経生理学、神経解剖学、情報科学などを含む学際的な学問で、医学の中の重要な領域の1つであるといえる。この科目では、物質科学的な流れと、情報科学的な流れの二つの大きな側面から講義を進める。講義項目には、脳<span>の世紀</span>、脳研究への期待 遺伝子から脳へ 脳と情報の流れ 脳と記憶(可塑性と記憶のメカニズム) 脳と情報処理 神経難病と神経科学(アルツハイマー、パーキンソン病、他) 痛みの神経科学 神経難病と遺伝子 神経科学とリズム(サーカディアンリズムの仕組み)等からなる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	医療	中医学概論	
	療		
	複	医療経営学	
	合		
健康・スポーツ科学	健康	臨床心理学概論	
	スポーツ科学	食品栄養学	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 ・ ス ポ ー ツ 科 目	健康づくり概論	<p>少子・高齢化、要介護高齢者の増加、生活習慣病の増加、医療費の増加など社会を取り巻く環境は大きく変化し、健康づくりの重要性はますます増加している。一方、健康づくりには運動、栄養、休養の三本柱の重要性が知られており本講座ではこれらと健康との関わりについて学ぶ。また、メタボリックシンドロームに有効な有酸素運動や高齢者の転倒防止に有効な筋力トレーニング、柔軟性を増加させるストレッチングや運動を行う上で基礎となるトレーニングの原理などについての理解も深める。</p>	
	健康運動実習	<p>有酸素運動は生活習慣病やメタボリックシンドロームの改善に有効であることが知られている。一方、有酸素運動として一般的に行われているものの一つにエアロビックダンスがある。本講座ではエアロビックダンスの健康に対する効果を理解させるとともに、老若男女が気軽にできるエアロビックダンスの指導法を含めた知識と技術を習得する。また、ストレッチングの実際についても学ぶ。</p>	
	健康運動実習	<p>健康づくり運動には有酸素運動が重要であることが知られている。しかし、運動はただやみくもにやれば良いものではなく、心拍数を確認しながら最も適当な強度で、ある程度の時間続けて行う必要がある。本講座では有酸素運動として良く行われており、膝や腰に負担のかかりにくい水中運動（アクアビクスを含む）と水泳（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、古式泳法など）の指導法を含めた知識と技術を習得する。</p>	
	健康スポーツ理論	<p>適切な運動は身体的にも精神的にも良い影響があることが知られている。本講座では運動を実際に行ったり、指導したりする上で必要な基礎知識を習得することを目的に、以下の事項について講義する。</p> <p>(1) スポーツと疲労回復  (2) ウォーミングアップとクーリングダウン  (3) フィットネスプログラムの基本的な方法  (4) 子どものフィットネスプログラム  (5) 中、高年者のフィットネスプログラム</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 ・ ス 教 育   ツ 科 目 学		<p>(6) 女性のフィットネスプログラム</p> <p>(7) 障害者のフィットネスプログラム</p> <p>(8) 体調チェックの意義と方法</p> <p>(9) スポーツ相談の意義と実際</p>		
	健康	フィットネス実習	<p>トレーニングには全身持久力系、筋力・筋持久力系、柔軟性系、調整力系などがある。本講座ではこれらの能力を向上させる様々な運動(ウォーキング、ジョギング、ストレッチング、補強運動など)を安全にまた効果的に行う上で必要な知識と技術を学ぶ。また、トレーニング前後で必要な体調チェックやウォーミングアップ、クーリングダウンについても実践する。</p>	
	スポーツ	フィットネス実習	<p>最も適当な運動負荷を行う上で対象者の運動能力を知ることが重要なことである。そこで、本講座では体力測定の方法とその判定方法を学ぶとともに実際に測定、判定を行う。また、体力測定の結果を基にしてフィットネスプログラムを実際に作成し、それらを実際に行ってみる。このとき、対象者に合わせる事が重要であることから「子ども」、「中年」、「高齢者」、「女性」、「障害者」のフィットネスプログラムの作成方法についても学ぶ。さらに、トレーニングマシンの使い方についても学ぶ。</p>	
	コミュニケーション学	コミュニケーション学	<p>柔道整復や健康指導を含め医療に従事する者には、患者との良好な信頼関係を抜きにして、施術行為や指導を行うことは難しい。さらに、医療行為や運動指導も周りのスタッフと協力関係が得られてこそ円滑に事を進める事が可能となる。これらのことは、換言すると人間関係をいかに良好に保つかということの意味する。それを可能にするためには、個々人の思い込みのみでは上手くいかない、つまりコミュニケーションをするテクニックを持つことが必要となる。そこで、コミュニケーションを持つこととは、どのようなものなのかについて概観し、実践に生かせるよう指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目	健康	アロマセラピー	
	ス ポ ー ツ	マイオケア (トリガー理論)	
	科	ヨーガ	
	学	太極拳	

アメリカやヨーロッパの医療現場では世界各地で伝統的な治療として用いられてきた代替・補完医療が見直されつつある。本講義では、最も歴史の古い自然療法・植物療法であり、伝統と化学の統合から生まれたアロマセラピーという植物の持つ芳香成分を利用した健康法についての基礎知識、理論と実技を修得し、精油が働く仕組みや、その効果や効能について基本理論と技術を実際の治療法の一つとしてまた日常生活での心身の健康維持に応用できるよう指導を行う。

ヘルスプロモーション並びに柔道整復の実践において、筋肉学、運動器疾患の知識は不可欠である。また、筋肉には、そこを押さえると他の箇所に痛みが放散するポイント(トリガーポイント)があり、そのポイントが治療点になることはよく知られている。本講義では、トリガーポイント理論を応用した筋肉に対する手技(マイオケア)の基礎的知識、臨床的知識と技術を教授する。

本講座では単にヨーガの技術を学習するだけでなく、ヨーガを学ぶことによって身体と精神の合一性、身体と精神を本来の自然な状態に近づけることによって、人は喜びのうちに生活を送ることが出来ることを体験する。また、自己及び他者の身体の不具合を修復するとともに、心の状態までケア出来る様になることを目指す。

実際には、ヨーガとは 中国健康棒柔軟 ヨガ体位法  
修正ポーズ 全身ほぐし柔軟 楽健法(足心道)  
関節柔軟法 ゆがみ修正柔軟、などを行う。

太極拳は中国の武術の一種であるが、現在では古代の陰陽五行や東洋哲学思想に基づいて行われており、心身のバランスをとるため、その方法の一つにゆっくりと静かに動くといった特徴を持っている。また、心や呼吸を静かに整え、滑らかな動きをすることは、精神的なものばかりでなく、神経系、筋系、循環器系、呼吸器系にも影響を及ぼし、健康法としての効果も認められてきている。本講座ではこれらの効果が期待できる太極拳の理論と技術とを習得する事を目的とする。